

国際開発学会第16回春季大会企画セッション

「経済発展のメカニズムと政策・支援:

石川滋先生の貢献と現代」

# 経済開発研究での継承・発展 —地域研究と歴史研究の観点から—

2015.6.7

神戸大学大学院国際協力研究科

高橋基樹

# 経済開発研究での継承・発展

1. はじめに—巨人の肩の上に立つ
2. 石川と開発援助政策研究
3. 経済開発研究と石川理論
4. 石川理論とアフリカ(1)—政治体制の問題
5. 石川理論とアフリカ(2)—市場の低発達と低生産力
6. 低開発状況の脱却の方策とアフリカの現実
7. おわりに—継ぐべきもの

# 1. はじめに

- アフリカ研究と最晩年の石川滋
- 高邁な志：「無口な孤高の」援助国からリーディング・ドナーへ
- 世界規模の視野と尽きせぬ開発研究への意欲
- アフリカ＝開発の「最後のフロンティア」の課題の理解へ

## 2. 石川と開発援助政策研究

- あるドナー国の援助の性格を規定する要因

主要対象国の事情:

ドナーと対象国との関係

初期条件

工業化政策におけるイニシアティブの有無と  
程度

開発ニーズ

- これによって、日本と西欧の援助アプローチの違いは大きく影響を受ける

## 2. 石川と開発援助政策研究(2)

- 日本の援助国としての構造的特質
  - 「反応国家(Reactive State)」(Calder 1988)
  - 「第三者関係性」(佐藤2007)
  - 「政治的意志の欠如」(高橋2010b)
  - (下村2014参照)
- 「無口」「孤立」は、日本の国家あるいは外交の構造的特質ではないか ⇒ 非常に根深い問題

## 2. 石川と開発援助政策研究(3)

- 日本の東アジア援助＝対象国との経済的利益の共有関係の一部 (Takahashi 2015b)
- 日本型援助の現場における「作風」  
相手国側との目線の共有、意見の傾聴、共同の思考・苦心
- しかし、リーディングドナーであるための鍵は、既往の日本の援助の優劣にあるのではなく、アフリカ開発のニーズを捉えられているか否か

# 3. 経済開発研究と石川理論

- 狭義の開発経済学に対する経済開発研究  
「政治・行政・社会・文化」など非経済的側面を含んだ歴史的過程としての 「経済開発」の研究
- 「経済開発」: ある特定の国・社会において、近現代という特定の時代に、継起的に生ずる歴史的過程
- 開発政策論の使命は、その起動と促進  
⇒ 主導的な役割を日本の援助に期待  
しかも、それをアフリカで！

# 3. 経済開発研究と石川理論(2)

## ➤ 近現代の経済開発

- ① 政治体制：家産制国家 ⇒ 半家産制・半民主的国家 ⇒ 近代的民主国家
- ② 市場経済：市場の低発達・孤立的慣習経済 ⇒ 半市場化・半慣習経済 ⇒ 市場化経済
- ③ 生産力：低生産力・自給自足的家族経済 ⇒ 半商業化・半工業化経済 ⇒ 近代的工業化経済

✓ 紛れもない工業化と市場経済化の重視



## 4. 石川理論とアフリカ(1) —政治体制の問題

- 開発初期の政治体制としての家産制  
公共性の等閑視と政策・公共財の私物化
- 欧州、アジア、アフリカに広く存在：前近代に  
歴史的根拠を持つ
- ✓ 現代アフリカ国家の家産制的性格：  
疑いなく重要

## 4. 石川理論とアフリカ(1) —政治体制の問題(2)

### ✓ アフリカの前近代史

水平的社会、成文法と階梯的支配構造の欠如  
恒久的な収奪関係の未発達

### ✓ 植民地支配の重要性と限定的なインパクト 垂直的権力構造の外生的な導入

⇒ 現代国家の「無根性」 rootlessness

資源徴収・配分、行動規制の能力の極端な欠如

# 4. 石川理論とアフリカ(1)

## —政治体制の問題(3)

### ➤ 石川理論：家産制と指令経済

3つの経済システム：市場経済、慣習経済、指令経済

慣習経済の卓越 ⇒ 指令経済の発達

社会主義的統制によるキャッチアップ

- ✓ しかし、アフリカでは指令経済は全面化せず  
むしろ、国家の介入は家産制を延命強化  
アジア・ヨーロッパとの違いは何故生じたか  
⇒ 今後の研究課題

# 5. 石川理論とアフリカ

## —市場の低発達と低生産力

- 石川理論における市場の低発達：歴史的 개념  
新古典派の没歴史性への批判
- 市場の低発達性と不完備性  
石川はポスト新古典派の不完備性論を評価  
しかし、あくまで市場の低発達を「経済開発」という  
歴史的過程の中で捉えることを主張
- ✓ 市場の未発達・不完全さを非経済的な要素との関  
連で捉える必要性

# 5. 石川理論とアフリカ

## —市場の低発達と低生産力(2)

- 石川理論における市場の発達の条件  
社会的分業、取引ルール、運輸通信インフラ、  
公共財提供者としての政府
- 論理的に上記条件の整備には政府が深く関係  
⇒ だからこそ、家産制が克服されるべし
- ✓ しかし、家産制の解体は、市場発達の絶対的  
な必要条件か？むしろ重要なことは、法の支配  
の欠如など国家の「無根性」ではないか？

# 5. 石川理論とアフリカ

## —市場の低発達と低生産力(3)

- ✓ 農業と農村の低開発と国家の関係を捉えること
- ✓ 低生産力と低開発の構造的メカニズム  
苛酷な自然条件 + 科学技術の適用の遅れ  
⇒ 低生産力 + 自給自足経済
- ✓ 低生産力⇒資源動員の困難性⇒「無根性」
- ✓ 「無根性」⇒上記の不利な条件克服のための公共財・技術の供給インセンティブの欠如⇒低生産力

## 6. 低開発状況の脱却の方策と アフリカの現実

➤ 政治体制の改革＝家産制の打破に向けて  
欧米流の民主主義制度の徹底

VS

中間層の政治的発言権の拡大

- ✓ 中間層の拡大は疑いなく重要・・・しかし、  
中間層の拡大は家産制解体の結果＝循環論？  
社会変革へのより深い介入？  
広範な人々によって担われる包摂的な政治へ

## 7. おわりにー継ぐべきもの

- ✓ 政策論を主導するリーディング・ドナーへの志  
⇔ 短期的・即物的利益を求める「国益」論
- ✓ アフリカ開発をめぐる景観の激変  
伝統ドナーの財政逼迫、新興国の台頭、アフリカ自体での成長率の上昇と脱工業化  
⇒ ポスト貧困削減の時代にどう「志」を実現するか
- 歴史性・固有性を視野に入れた地域研究と日本の援助の比較優位の結合に向けて



# おわりに—感謝をこめて



本セッションの実現にご尽力を頂いた柳原透先生はじめ皆様に感謝申し上げます。

何よりも、石川滋先生のご冥福を祈るとともに、先生の志をいくばくか実現するために邁進することを誓って、先生から頂いた計り知れぬ学恩への感謝の一部に代えさせて頂きます。

# 参考文献

- 石川滋1990『開発経済学の基本問題』岩波書店.
- 石川滋1996「開発経済学から開発協力政策へ」石川滋編『開発協力政策の理論的研究』アジア経済研究所、5-86ページ.
- 石川滋2005「成長と貧困削減の途上国援助—アフリカ型の英国モデルと東アジア川の日本モデルとの相互学習のために—」(GRIPS Development Forum Discussion Paper no.10) 27ページ.
- 石川滋2006『国際開発政策研究』東洋経済新報社.
- 石川滋2007「アフリカ型と東アジア型の開発モデル比較」『日本学士院紀要』第62巻第1号、1-41ページ.
- 石川滋2008「アフリカ型と東アジア型の開発(制度)比較モデル—日・英間国際開発政策の相互学習を目指して—」(FASID Discussion Paper on Development Assistance No. 13) 51ページ.
- 岡野英之・高橋基樹 2014「アフリカにおける社会経済変動と人間の安全保障」北川勝彦・高橋基樹編『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、247-277ページ.
- 佐藤誠2007「日本のアフリカ外交—歴史にみるその特質」『成長するアフリカ—日本と中国の視点』  
([http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Kidou/pdf/2007\\_03\\_03\\_3\\_sato\\_j.pdf](http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Kidou/pdf/2007_03_03_3_sato_j.pdf) 2010年3月21日ダウンロード)、1-11ページ.
- 下村恭民2014「日本の援助の源流に関する歴史比較制度分析」『国際開発研究』第23巻第1号、117-131ページ.
- 下村恭民・大橋英夫・日本国際問題研究所編『中国の対外援助』日本経済評論社.
- 高橋基樹2005 「ファンジビリティと開発援助—貧困国家に対する一般財政支援の課題—」『国民経済雑誌』第191巻第6号、67-86ページ.
- 高橋基樹2010a『開発と国家—アフリカ政治経済論序説—』勁草書房.
- 高橋基樹2010b「日本の対アフリカ援助外交の変遷—<反応>性と政治的意志の欠如」『国際問題』591号、14-27ページ.
- 高橋基樹2014a「人々の腐敗への怒り」北川勝彦・高橋基樹編『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、108ページ.
- 高橋基樹2014b「アフリカ経済の現状とその『質』」北川勝彦・高橋基樹編『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、111-150ページ.
- 高橋基樹2015a「現代アフリカ国家の特質—その歴史的・包括的理解に向けて—」『国民経済雑誌』第211巻第1号、1-38ページ.
- 高橋基樹2015b「アフリカ開発援助における日本の役割—イギリスとの比較を通じて—」黒崎卓・大塚啓二郎編『これからの日本の国際協力—ビッグ・ドナーからスマートドナーへ—』日本評社 65-95ページ.
- 武内進一 2009 『現代アフリカの紛争と国家—ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』明石書店.
- 武内進一 2014 「独立後の政治経済体制」北川勝彦・高橋基樹編『現代アフリカ経済論』ミネルヴァ書房、93-110ページ.
- 寺西重郎1995『経済開発と途上国債務』東京大学出版会.
- 戸田真紀子2008 『アフリカと政治：紛争と貧困とジェンダー —わたしたちがアフリカを学ぶ理由—』御茶ノ水書房.
- 速水佑次郎1995『開発経済学—諸国民の貧困と富—』創文社.
- 柳原透 刊行予定 「石川滋と国際開発政策研究」『アジア経済』.
- 吉田昌夫1999「東アフリカの農村変容と土地制度改革のアクター：タンザニアを中心に」『アフリカ農村像の再検討』アジア経済研究所、3-58ページ.
- Acemoglu, Daron and James A. Robinson 2012 *Why Nations Fail: The Origins of Power, Prosperity, and Poverty* Crown Business.
- Brautigam, Deborah 2009 *Dragon's Gift: Real Story of China in Africa*, Oxford: Oxford University Press.
- Calder, Kent E., 1988 "Japanese Foreign Economic Policy Formation: Explaining the Reactive State," *World Politics*, vol.40, no.4, pp.517-541.
- Hicks, John Richard 1969 *Theory of Economic History* Oxford: Clarendon Press.
- Takahashi, Motoki 2015 "Towards Development Cooperation as Inter-cultural Dialogue: ODA and Japan's Experience of "Self-help"" PFUR Bulletin of International Relations (People's Friendship University, Russia) vol.15 issue 1, pp. 5-14.